

2024年度三重大学「学生海外チャレンジ応援事業」報告書

計画タイトル	採択コース
カンボジアで国際支援の第一歩	Aコース

学生情報	
氏名	片山 水葵
所属学部・研究科	医学部・医学科
学年(出発時)	3年

渡航先情報	
渡航先	プノンペン・カンボジア
渡航先滞在期間	2024年08月04日 ~ 2024年08月17日
訪問先機関等	Projects Abroad
訪問先機関での身分	ボランティア

渡航概要と内容
<p>カンボジアの首都であるプノンペンで2週間海外ボランティアのインターンをしてきました。ボランティア寮に宿泊し、食事は寮で朝昼晩用意して頂けます。活動内容は主に2つで、①ヘルスチェックと②保健衛生教育です。①では現地の医師や看護師と共に、貧しくて病院に行けないコミュニティや学校に出向き子供から高齢者を対象に血糖値や血圧などを測るヘルスチェックを行います。②では幼稚園や学校などの教育施設で、健康管理への認識が乏しい現地の子供たちに、特定の病気の治療法や対策を教えたり歯ブラシや手洗いの方法を教えるなど、啓発活動を行います。他にもカンボジアの病院を実際に回ったり、障害者や孤児の施設と一緒に遊んだり、医療や公衆衛生に関わる活動をします。活動は長くても17時までに終了し、そこからは他のインターン生と外食したり、カンボジア料理に挑戦したり、カンボジアの街を観光したりしました。</p>
渡航により達成できたこと
<p>現地の人々にヘルスチェックを行うことで、カンボジアの方がどのような問題を抱えているのかどういう疾患が多いのかを身をもって実感しました。また今までは薬理学を学んでいても、実際の薬を使うことは無かったけれど、今回、処方現場に立ち会うことでどのような薬がどのような時に出されているのかを学びました。医師の手が空いていない時はインターン生が既往歴やヘルスチェックの結果を考慮して薬を処方しました。他にも現地の病院や薬局に実際に出向くことで、日本との違いを学びました。また、当初の目的であった、歯ブラシの啓蒙活動を小学校で行うことが出来て良かったなと思います。何十人もの子供たちに向けて英語で授業をすることは今までにしたことが無く、とても貴重な経験をさせて頂きました。また、実際に子供たちの歯磨きのレベルが上がリ、公衆衛生に貢献できていたら良いなと思います。今回の活動を通して、海外に感じていた壁がかなり低くなったような気がします。現地のコーディネーターや他のインターン生と会話することで、文法も単語も全然完璧じゃないけれど何とか伝えることができ、間違えても積極的に話すことが大切だと感じました。</p>

渡航を通じて感じたこと・学んだこと

まずカンボジアと日本の医療を比較して感じたのは、カンボジアはまだまだ発展途上だということです。首都であるプノンペンにはタワーマンションやガラス張りのビルがかなり建っていて一見都会で、発展しているのかな？と思いました。しかし、医療はかなり発展途上です。病床は溢れ返り、ベッドが無いために床で寝ている患者さんもちらほら。隣のベッドとの間隔も一人一人が通れるくらいの幅です。カンボジアの看護師は人材不足からなのか伝統的なのか分かりませんが医療行為以外は行いません。患者の身の回りの世話(排泄や食事)は患者の家族が行います。食事は家族が毎日もってこなければなりません。1人が入院すると、金銭的にも体力的にも家族への負担はかなり大きいことが予想されます。他にも薬剤師不在の薬局もたくさんあって、外の箱だけ同じで中身は入れ替えられているフェイクドラッグなども出回っているそうです。JICAに出向き、カンボジアの保険医療について勉強させていただきましたが、医師や薬剤師の人材不足は深刻で、金儲けに走る医師も多くいて問題になっていると仰っていました。また、貧困層の人々は中々病院には行けないみたいです。疾患で苦しんでいる患者さんに医師が大きい病院に行って診てもらった方がいい、と言ってもお金が無いために行けない人がたくさんいて、まだ医療機関がすべての人に公平に利用できるものではないのだと実感しました。

今回の経験を今後の学修及びキャリアパスの中でどのように活かしていくか

カンボジアの医療を見ることで、発展途上国では十分に医療を受けられない人がまだまだいることを改めて実感しました。現状をどうやったら打開出来るのかまだ分かりませんが、将来何かの形でカンボジアのような国の医療に貢献できたらいいと思います。特に貧困層の地域のヘルスチェックは医師1人と他のインターン生で回ることが多く、1つの地域には2週間に1回程来ていると言っていました。金銭的に病院に行けない患者にとってこの医師1人の存在はとても貴重なものだと思います。だから、日本の先進国よりも医師1人の存在がよりダイレクトに力を発揮できるのが発展途上国の医療なのかなと実感しました。また、カンボジアの医師は、薬剤師不足が顕著なこともあり、1人で薬剤師もこなすほど、薬の知識も幅広く持っています。そんな風に二役出来るくらい知識を身につけた医師になりたいです。

この事業での渡航を考えている学生へのアドバイス

最初、私は挑戦しようかどうかどうしようかとかなり迷いました。発展途上国に行くのは初めてで、治安の面でも1人で飛行機に乗ることに不安は大きかったです。また、周りも『カンボジア行くなんて大丈夫なの?』と聞いてくる人もしばしばいました。しかし、今行ってよかったと断言できます。想像してたカンボジアは実際のカンボジアとは全然違ったし、治安も日本程では無いけれど過度に身構える必要は無いのかなと思いました。私が出会った現地の人々はみんな優しく朗らかで素敵な人ばかりで、国民性も学びつつ順応していくことができたと思います。もし迷っている人がいるなら挑戦してみたいです。カンボジアは他の国に比べてもかなり安全で過ごしやすい、国際支援の1歩目にはもってこいの国だと思います。終わった時にきっと素敵な体験になっていると思うので、頑張ってください!!

計画全体にかかった費用(自己負担分も含めて、日本円で記載すること。)

渡航費(往復)	87,130円
海外旅行保険	6,460円
学費(教科書代や大学等プログラム授業料等)	338,500円
宿泊費	9,000円
光熱費	0円
食費	0円
その他	120,000円
合計	561,090円